



北 中 だ よ り

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより
No44
文責 芹川博文
3月14日(金)

「私たちには 義務がある」 ～ 高校生平和大使 3 名から伝わった使命感 ～

自分は、修学旅行で被爆地に実際に行って平和について学んだり、総合の授業などで意見交換したりと、沢山平和について学んできたけど、結局キレイごとを言っただけで、自分は実際には何も行動できていないし、行動しようという思いもそんなに強くなかったから、自分は何も出来ないまま中学生にまでなってしまったのかなと、今回の講話を通して気が付きました。だけど、平和大使の方々は、平和・戦争への想いが、自分よりもはるかに強く、「行動できていない」と思ったら、行動に移すことのできる、いわゆる有言実行が果たせている方々なんだと、とても尊敬しました。これを機に、何事も有言実行できるような美しい人になりたいと思いました。

1 年 後藤 杏

本物に出逢うことの大切さを、改めて感じた時でした。1 年担任の吉里先生の熱い思いで実現した高校生平和大使を迎えての学習。聞くとところによると、今回が 13 校目の訪問とのこと。高校の大切な授業日にもかかわらず、使命感をもって小中学生に伝え続ける姿は、眩しく映ったことでしょう。そして、平和が「当たり前」ではない現状を知ることや、行動することの大切さも感じたようです。

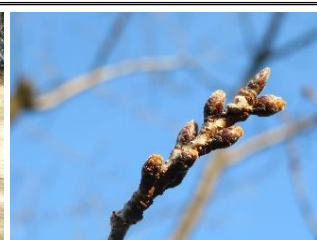
上の後藤さんの感想にもあるように、強い思いで誰かのために行動する姿は、周りの人の心をカブけます。

ノーベル平和賞授業式参加のためノルウェーに行った高校生からは、「現地の子の社会問題に対する意識の高さに驚きました。涙を流しながらプレゼン（発表）を聞いてくれる人もいました」とのことでした。子どもたちが、様々な「本物」に触れ、使命感をもって視野を広げていくことの大切さを感じました。



北中七則 一、ここ菊池に生誕す。人、生を受くるに必ず使命あり。この使命を自覚して志を立て、筋骨を労し、心思を労し、自己の創造に力を尽くすべし。

菊心台（北中グラウンド）に響く新たな歓声 ～ 自分たちのスタイルで引き継いでいく 1, 2 年生たち ～



高校生の時、英語の授業で「miss（ミス）という単語は奥が深いぞ」と習いました。「lonely（ロンリー）は一般的な寂しさ。miss は“あなたがここになくて、さびしい”という意味。なかなか奥深い」という説明でした。余談ですが熊本弁では「とぜんなか」でしょうか。

卒業式から一週間。3 年教室を通るたびに穴が開いたような寂しさを感じます。ちょうど 1 年前、前任の平野 忠博 校長先生からプレゼントされたサッカーボールも、すっかり色が落ちました。卒業生が使い続けた証であり、彼らが飛び立った後の「足跡」を、ここにも感じます。

しかし、確実に「新しい風」は吹いてきます。今週から早速、昼休みに新たな歓声が響くようになりました。初日は確か 2 人の女子生徒でした。徐々にフォロワーとしての仲間が増え、今日（木曜日）は、1, 2 年生合わせて 20 人以上の生徒が菊心台（グラウンド）で遊んでいました。卒業生の後を、後輩たちが自分たちのスタイルで引き継いでいく頼もしさを感じました。

桜のつぼみも、わずかですが色づいてきたようです。春が楽しみです。